

主要魚種の生態調査（バケメイタの月別水深別出現状況）

（沿岸漁場開発調査）

藤川裕司・田中伸和

1. 研究目的

バケメイタの月別水深別の出現状況を把握するとともに、年齢推定に利用する標本を得るために、昨年に引き続き江津市敬川町沖においてトロール網による調査を行った。試験操業結果から当歳魚の出現量と翌年の1歳魚漁獲量との間に相関関係があることが明らかとなったので報告する。

2. 研究方法

平成10年4月～11月に、江津市敬川町沖の水深60、80、100、120、130mにおいて、試験船「明風」によるトロール網の試験操業を行った。曳網速度は2ノットであった。投網地点において、STD（アレック電子）により水温と塩分の測定を行った。採集したバケメイタは全長、体重、生殖腺重量、生殖腺熟度の測定および採鱗を行った。

平成9年度の当歳魚の出現状況は、藤川ら¹⁾によった。月別の全長組成には、小型群と大型群の2群が認められ、両者の分布は重なることがないので小型群を当歳魚と判断した。

3. 研究結果

バケメイタの試験船明風による江津市敬川沖における1時間曳網当たりの当歳魚採集尾数と翌年の和江漁協小底1種による9月の漁獲量との関係を表1に示した。和江漁協小底1種によるバケメイタの盛漁期は9月で、その漁場は、試験操業を行った海域も含めた益田市から大社町の沖合である。

平成9年の試験船明風による1時間曳網当たり当歳魚の採集尾数は43尾で、翌年の小底1種による9月の漁獲量は42トンであった。平成10年には、明風による採集尾数は3尾と激減し、翌年の和江漁協小底1種による漁獲量も同様に減少した。

鳥取県²⁾は、バケメイタ当歳魚の出現量と翌年の1歳魚漁獲量の間には、ほぼ正の相関が認められると報告している。和江漁協小底1種が9月に漁獲するバケメイタも、1歳魚が主体であると推定されていることから、本県沿岸域においても同様の関係が成り立つ可能性が示唆された。

4. 文献

- 1) 藤川裕司・田中伸和・沖野 晃：資源管理型漁業推進総合対策事業。平成9年度鳥根県水産試験場事業報告、112 - 119 (1999)。
- 2) 鳥取県水産試験場：平成10年度日本海西区複合的資源管理型漁業広域回遊資源鳥根鳥取調査担当者連絡会議資料 (1998)。

表1 バケメイタの試験船明風による江津市敬川沖における1時間曳網当たりの当歳魚採集尾数と翌年の和江漁協小底1種による9月の漁獲量との関係

	明風による1時間曳網当たり当歳魚漁獲尾数*1	和江漁協小底1種9月の漁獲量(トン)*2
平成9年	43	
平成10年	3	42
平成11年		15

*1 8～10月の水深100、120mにおける採集尾数の平均

*2 僅かにホンメイタが含まれるが大部分はバケメイタ